

蝶ヶ岳冬期山行報告

2011 年 3 月 3 日(木) - 6 日(日)

M4 只左一也

M4 大橋雄一

1 日目: 八王子～松本～中ノ湯～上高地～横尾

2 日目: 横尾～蝶ヶ岳

3 日目: 蝶ヶ岳～長堀尾根～徳沢

4 日目: 徳沢～中ノ湯～松本～高尾

1 日目: 3月6日(日)

徳沢	09:00 発
上高地	11:30 着 12:00 発
中ノ湯	14:50 着 15:00 発(バス)
松本	16:15 着 17:20 発(JR)
高尾	21:30 着 (解散)

この山行の最大の目的は、蝶ヶ岳の山頂から真っ白な槍穂高を眺めることだった。そのため、山頂で朝を迎える 3 日目に一番天気が好くなるように、天気予報を見ながら日程を調節して、3 月 3 日の出発となった。

八王子で集合して、鈍行で松本へ。雲ひとつない快晴で、車窓から南アルプスや八ヶ岳の眺めが素晴らしい。松本から高山行のバスに乗る。松本は晴れていたが、西へ進むにつれて雲が多くなる。釜トンネル手前の中ノ湯で下車。冬は、ゲートが閉まっていてここから歩きになる。支度をして、トンネルに入るが、傾斜がきつくて、荷物が重く、歩き出しということもあって早くも大汗をかく。トンネルを抜けると、一気に雪が多くなる。スノーシューに履きかえ、夏は車が通る林道を進む。焼岳や穂高の眺めを期待していたが、残念ながら雲の中だった。日帰りで上高地を散策して戻って来る人たちとすれ違う。ひっそりとした雪の上高地で少し休憩を取り、横尾を目指す。明神の少し先までは夏に涸沢に入るときに使う夏道を進んだが、次第に夏道が右手の急斜面から崩れてきた雪で埋まって歩きにくくなったので、梓川の河原を進むことにした。

徳沢のあたりで薄暗くなり、新村橋でライトが必要になってしまった。とうとう真っ暗になってしまったが、横尾の広い冬期小屋で泊まりたかったので、我慢して歩き続けることにした。トレースを頼りに一面雪に覆われ雪原となった梓川の河原を進み、19 時半、ようやく横尾に到着。小屋の横に水がジャバジャバ流れていたのはありがたかった。この晩は、重いのを覚悟でかついできた坦々鍋を楽しんだ。



釜トンネル手前の中ノ湯バス停で下車



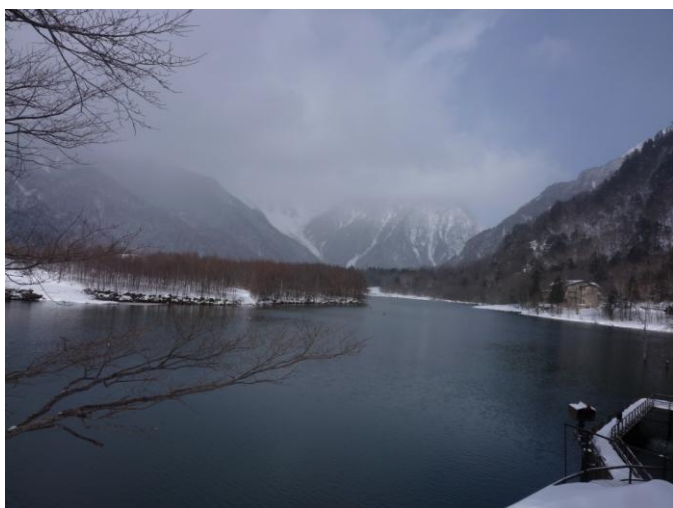
釜トンネルは急勾配で、苦しい登りだった



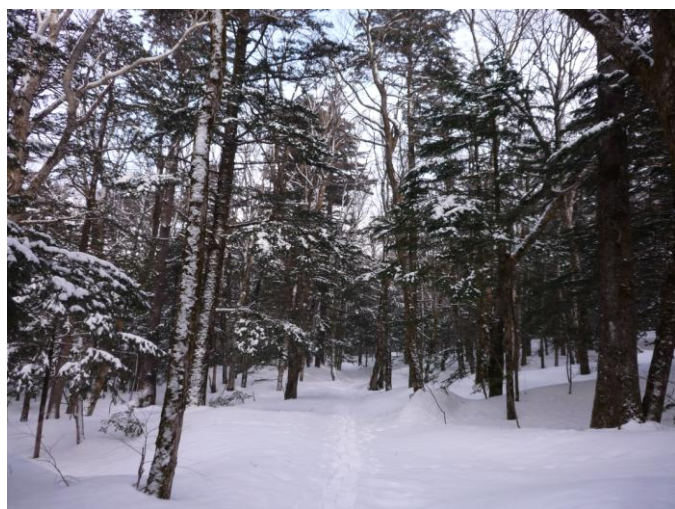
トンネルを抜けると急に雪が多くなった。スノーシューを履く。



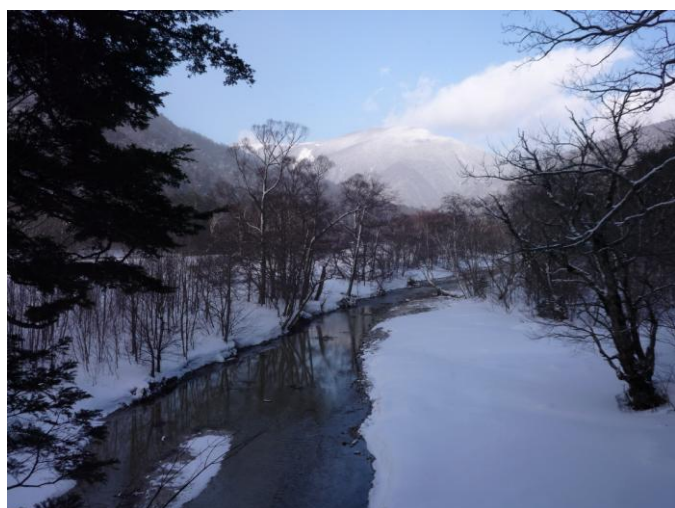
河童橋



大正池。天気が良ければ正面に穂高が見えるのだが…。



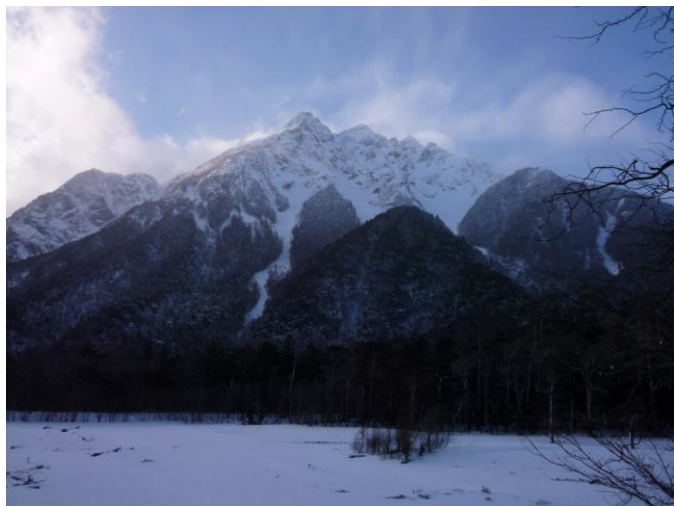
雪に覆われた静かな上高地バスターミナル



正面は蝶ヶ岳



雪に覆われた明神



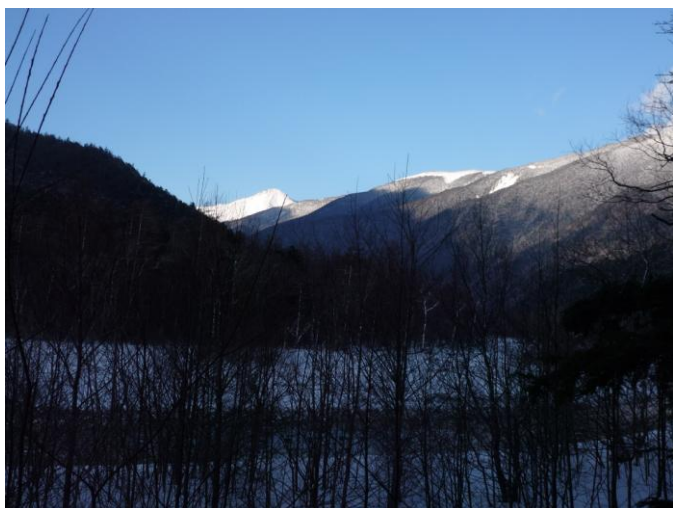
梓川の河原を歩く。左手には明神と前穂高。



久々の山でややバテ気味の大橋



19時半、ようやく横尾の冬期小屋に到着。私たちの貸し切り状態だった。



真っ白な常念岳。何度も歩いているのにノーマルルートから常念岳が見えるとは知らなかった。



小屋の前にはじゃばじゃば水が流れていた

2日目:3月4日(金)

横尾 8:40 発

蝶ヶ岳 18:20 着(冬期小屋泊)

4時半に起床したが、2人とも寝起きが悪く、準備にひどく手間取ってしまい、出発はなんと8時半になってしまった(どうしてこんなに時間がかかってしまったのだろう・・・?)。前穂高には雲がかかっていたが、上空は青空。屏風岩が夏よりも大きく見える。昨日は天気図をつけなかったが、冬型がゆるんで高気圧が西から近づいてきているはずだった。急斜面の厳しいラッセルを覚悟して、ワカンを履いて出発。横尾から、蝶ヶ岳への急斜面を登り始めるが、少し凍っていてあまり潜らず、思ったよりも歩きやすい。しかし、次第に雪がふかふかになり、苦しくなってきた。少し登ると、槍ヶ岳が見えた。西岳から大天井岳の真っ白な稜線が何とも言えない。

夏道のマークを参考にしながら、急斜面を登って行くが、2人ともペースが全く上がらず、なかなか進まない。ちょっと登って一息つくと、あっという間に1時間以上も経っている。荷物の重さと2人の体力不足が大きいのだが、それにしてもこの日は時間の経つのが非常に早く感じられた。雲が出てきて、ガスに覆われ始めた。2人ともバテバテになって、少し歩いては立ち止まり、少し歩いてはまた立ち止まり……。森林限界を超えないうちに夕方5時を過ぎてしまい、途中でテントを張ってしまおうかと思ったが、もうひと頑張りと思って(何度「もうひと頑張り!」と思ったことか)正面の藪を避けて少し南へトラバース気味に登ったところで、ようやく森林限界を抜け、稜線の直下のハイマツ帯に出た。疲れ切ってしまってワカンでは進みにくいので、スノーシューに履きかえる。空は雲に覆われているが、幸い視界は悪くない。蝶ヶ岳の横の展望台が見える。温度計ではマイナス23度だったが、稜線はさすがに風が強く、ちょっとじっとしているとすぐに手や顔の感覚がなくなってくる。稜線のすぐ西側は風で雪が飛ばされていて、地面がむき出しになっているところもあった。非常に疲れていて休みたかったが、暗くなってきたので、我慢をして先を急ぎ、夕方6時過ぎ、蝶ヶ岳ヒュッテの冬期小屋に転がり込んだ。



屏風岩

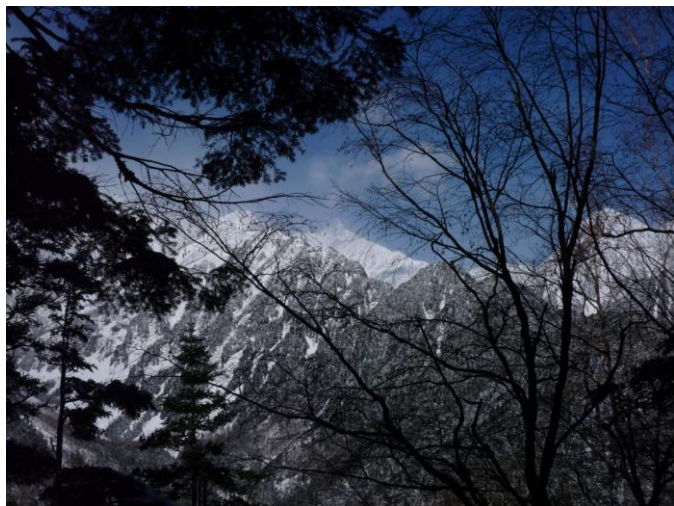


8時半すぎ、横尾を出発

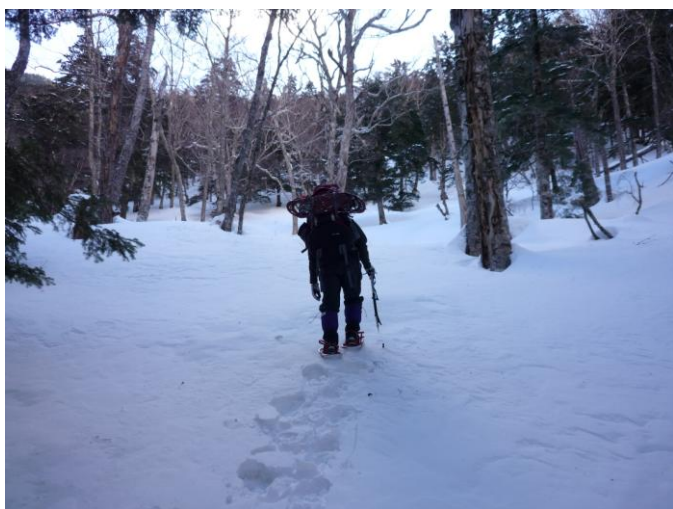




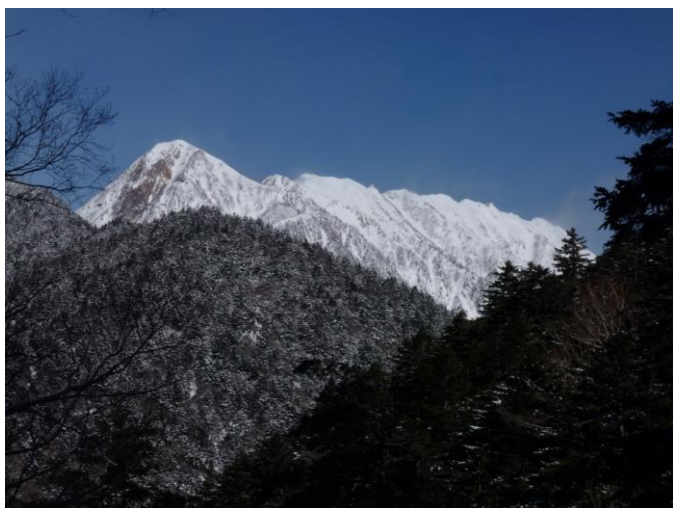
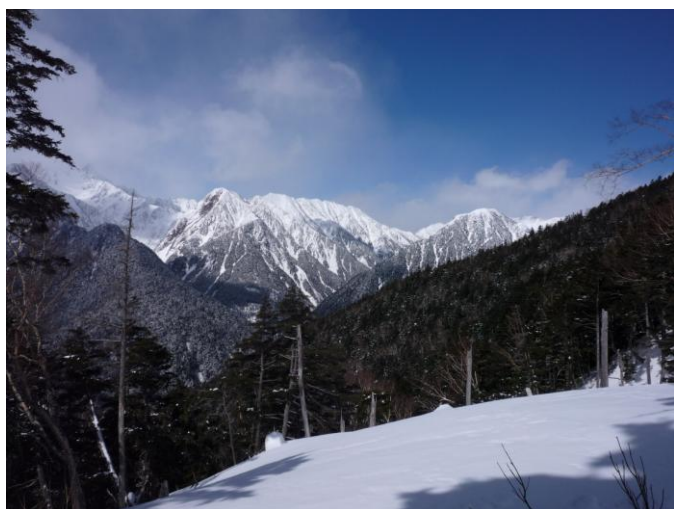
初めのうちは雪が締まっていて歩きやすかった



槍ヶ岳



次第に傾斜がきつくなり、苦しくなる



西岳



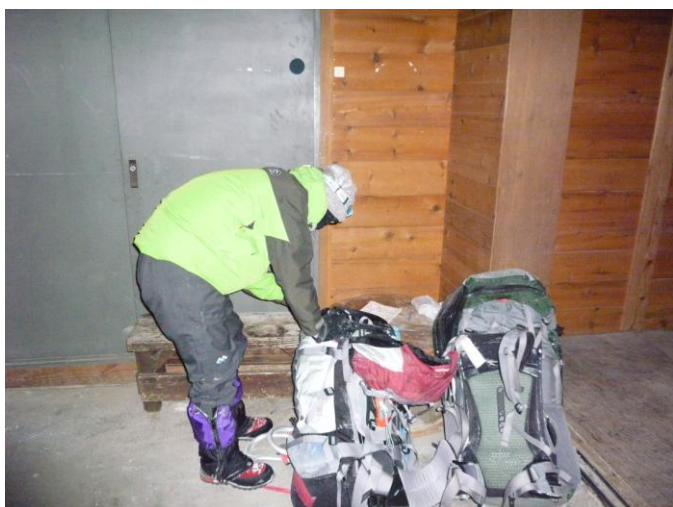
高度があがると雪がふかふかになって潜るようになり、傾斜もきついのでなかなか前に進まなくなってきた。



2 人ともペースが全然上がらず、樹林帯を抜ける前に薄暗くなってきた



夕方 5 時半、ようやく森林限界を超えた。気温は -23 度、風が強くて寒い。

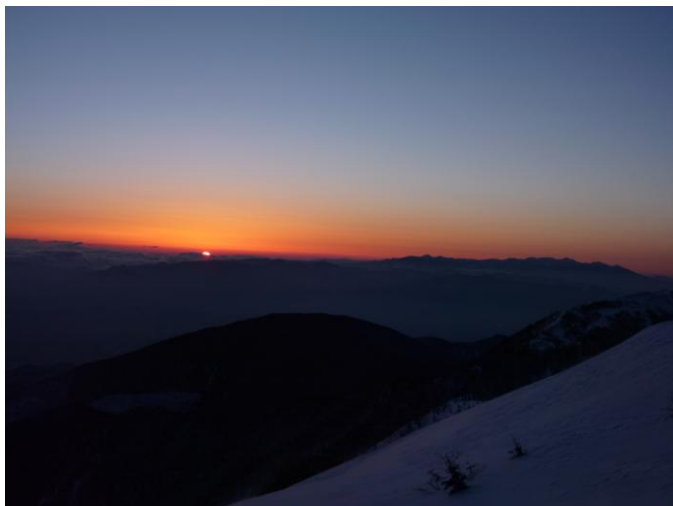


夕方 6 時 20 分、ようやく蝶ヶ岳ヒュッテに到着。冬期小屋を使わせてもらった。

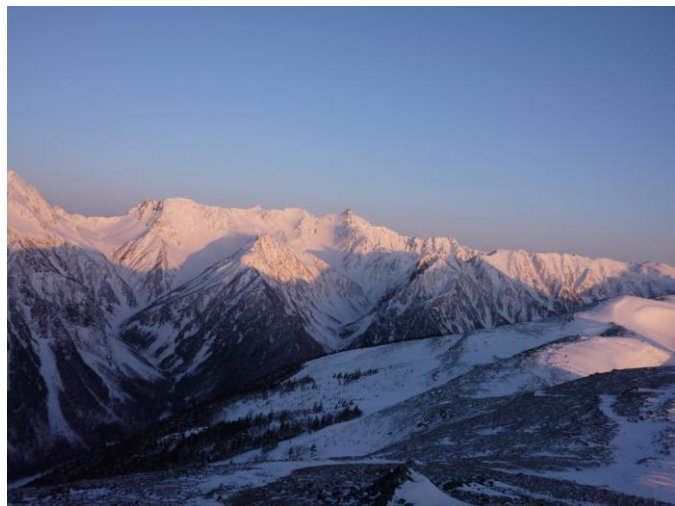
3 日目: 3 月 5 日 (土)

冬期小屋	10:00 発
蝶ヶ岳 (長堀尾根)	10:10 着 10:50 発
徳沢	17:00 着 (幕営)

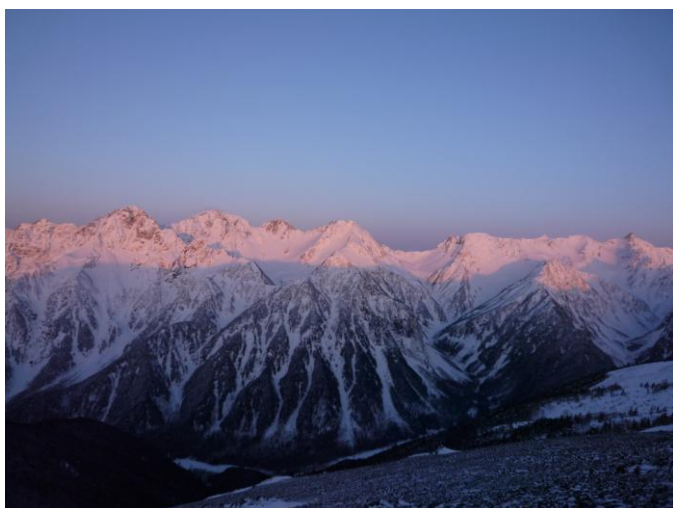
前日も天気図をつける余裕がなかったが、出発前の予報ではこの日は移動性高気圧が日本を覆って、全国的に天気が好くなるはずだった。早朝の景色を楽しむために、日の出の時間に合わせて起床し、外に出てみると、まだ薄暗かったが、期待通り空には雲ひとつかかっていない。小屋すぐわきにある展望台に向かうと、大展望が広がっていた。目の前には梓川をはさんで大きな槍穂高、常念岳から大天井岳の真っ白な稜線、雲に浮かぶ乗鞍と御嶽山、南東遠くには富士山をはさんで南アルプスと八ヶ岳……。風の強い場所らしいが、幸いなことに風が弱く、じっとしていてもそれほど寒くない。1 時間近く、たっぷりと眺めを楽しみ、小屋に戻って朝食を取った。出発する前に再び展望台から景色を楽しみ、10 時、ようやく小屋を出発。雲ひとつない快晴、ほとんど無風で日差しも暖かく、最高のコンディションとなった。小屋から数分でのっぺりした蝶ヶ岳山頂に到着。山頂からの眺めもすばらしく、30 分ほどのんびりしてしまう。10 時半、正面に乗鞍を眺めながら長堀尾根を下り始める。まったくトレースのないふかふかの雪の上をスノーシューで気分よく下って行く。雪はかなり深いがスノーシューの威力はさすがで全然潜らず、大変快適である。少し下ると樹林帯に入った。木々の間から見え隠れする真っ白な穂高がとても大きく見える。2 時間ほど歩くと、徳沢から登って来た単独行の人 2 人とすれ違う。傾斜がきつくなり、スノーシューでは歩きにくくなったので、ワカンに履きかえる。途中、適当に休みを取りながら快適に下り、夕方 5 時、徳沢に到着。10 張ほどテントが張ってあり、なかなかにぎやかだった。私たちも前穂高の眺めのいい場所にテントを張った。最高の 1 日だった。



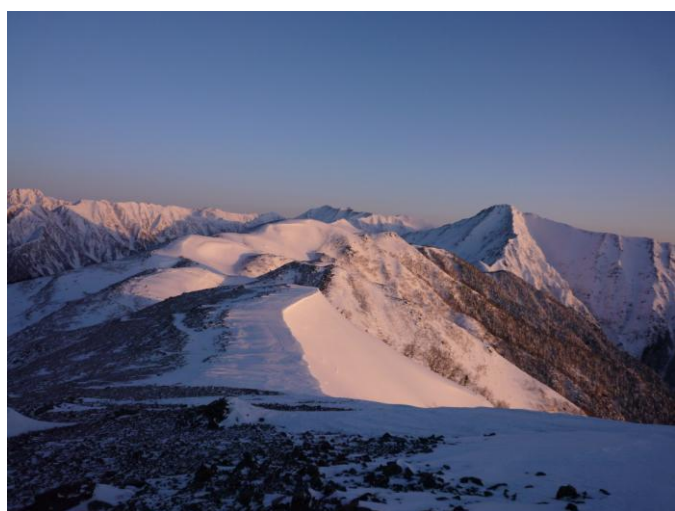
小屋のすぐ近くにある展望台で日の出を迎える。右は八ヶ岳。



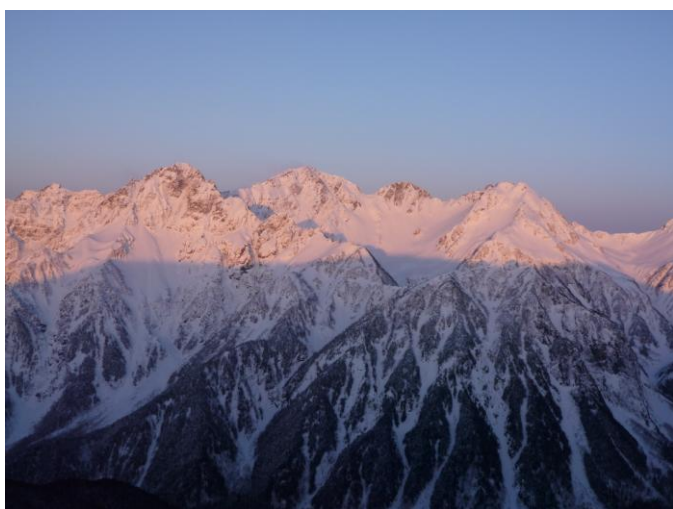
槍ヶ岳遠望



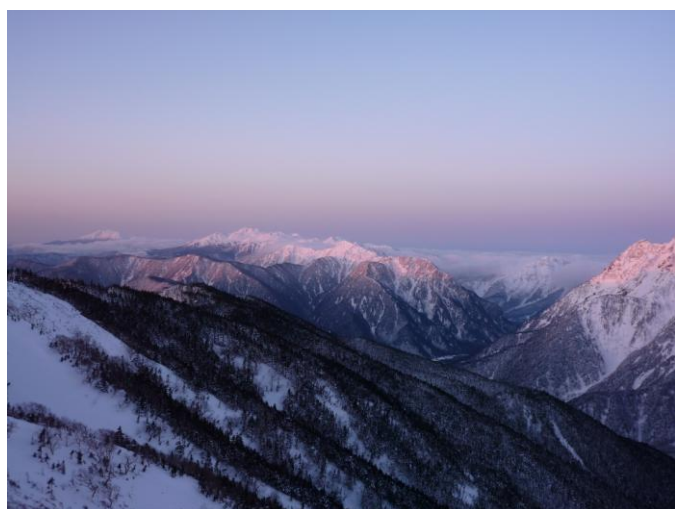
朝陽に染まる槍穂高



表銀座の稜線。右は常念岳。風が強いため、西側の雪は飛ばされて地面がむき出し。



穂高遠望



南西方面。中央は乗鞍岳、右は御嶽山。



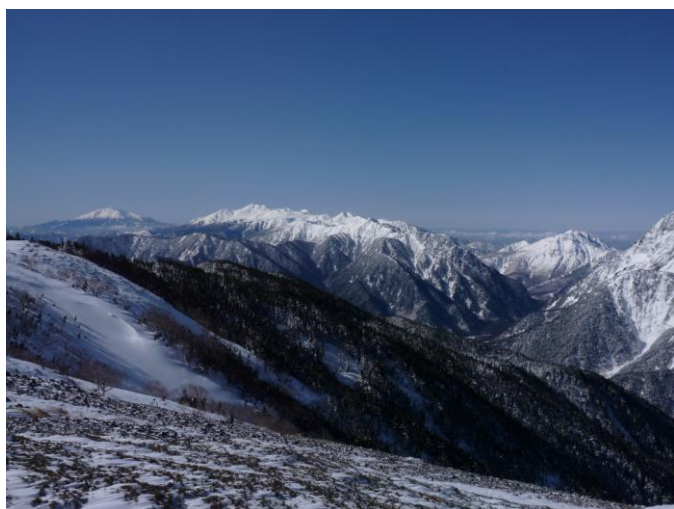
南東方面。右の小屋の向こうは蝶ヶ岳山頂。遠くに、富士山や甲斐駒ヶ岳（写真中央）。右は八ヶ岳。



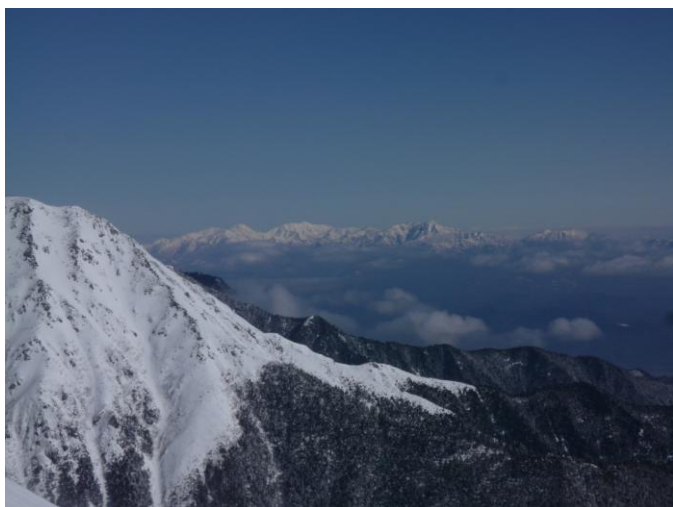
夢中になって写真を撮る大橋



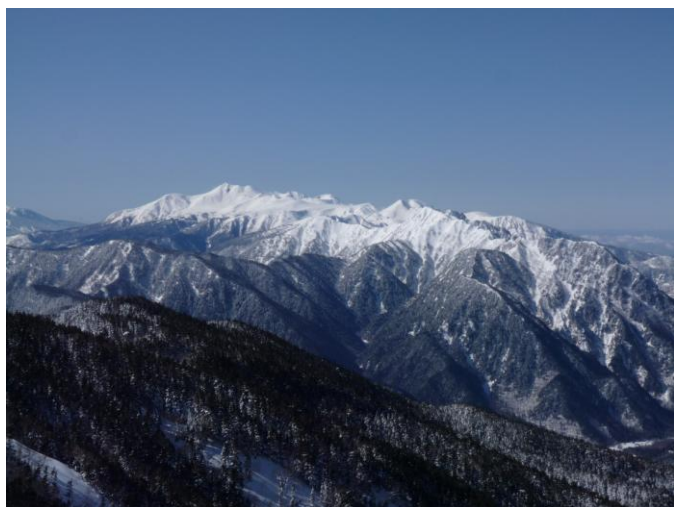
冬期小屋の入口。朝食後、再び展望台へ。



乗鞍方面の素晴らしい眺め。中央は乗鞍、左は御嶽山、右は焼岳。



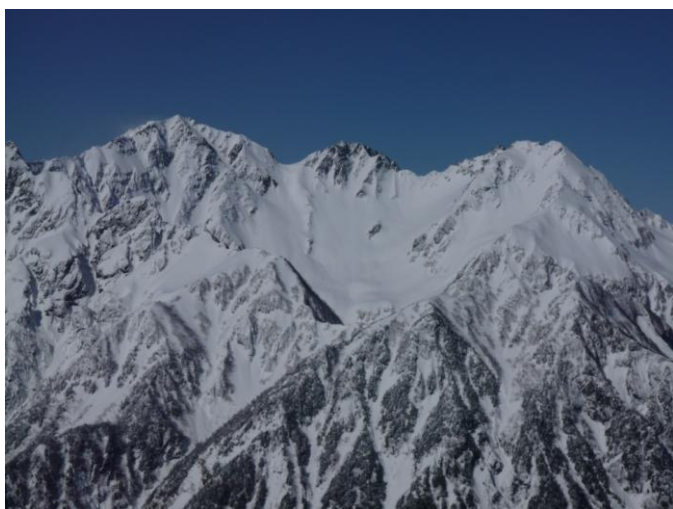
頸城の山々。左から焼山、火打山、妙高山。小屋の前から。



乗鞍岳遠望



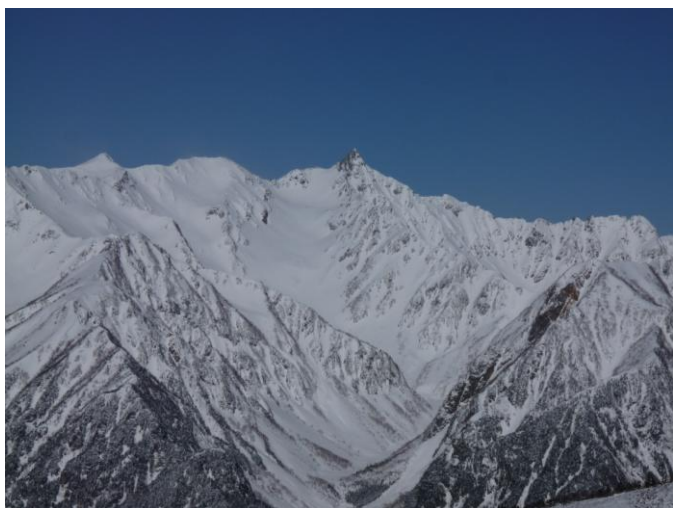
槍穂高。この景色が見たくてこの山行を計画した。



涸沢カール遠望。ザイテングラードもくっきり。



真っ白な蝶ヶ岳～常念岳～大天井岳の尾根



槍ヶ岳遠望。槍沢の地形がよく分かる。



常念岳遠望



小屋に戻り、荷物を担いですぐ傍の山頂へ



山頂から常念岳方面



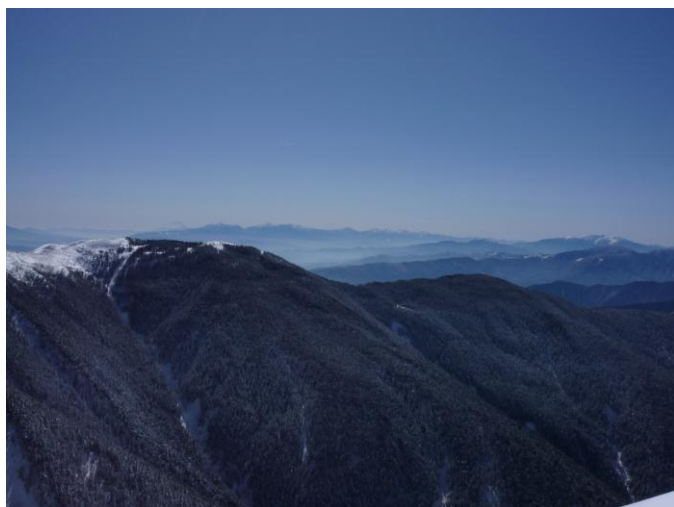
蝶ヶ岳山頂（2677m）



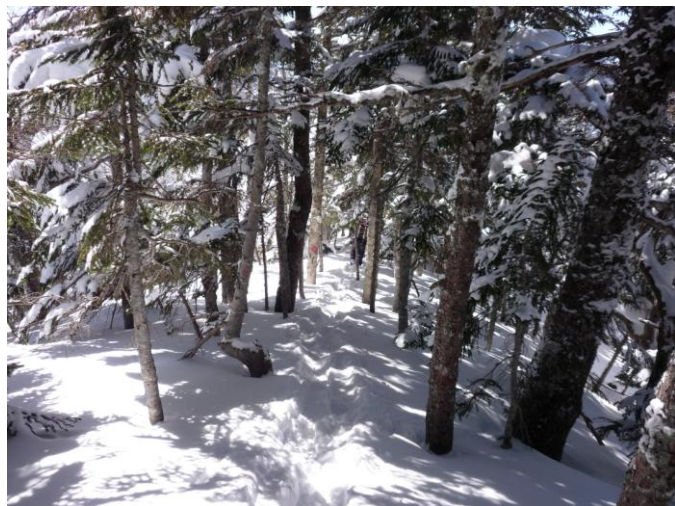
雲ひとつない快晴、ほぼ無風、最高のコンディションの下、山頂でも景色を楽しむ



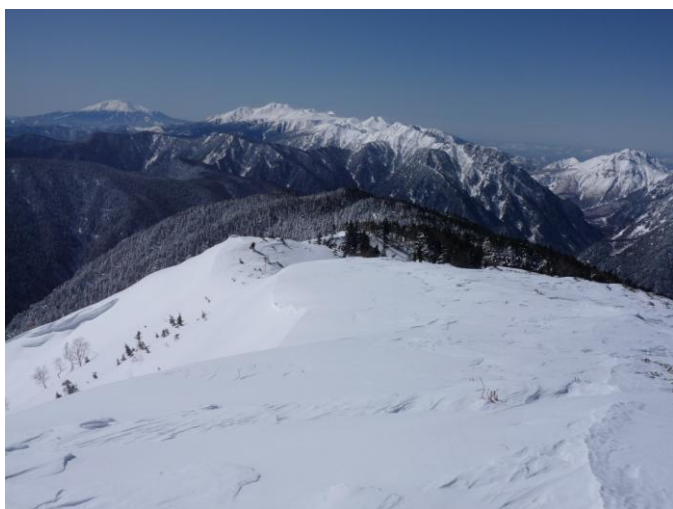
山頂で記念撮影。左が大橋、右が只左。



富士山、南アルプス遠望



樹林帯の中を下る



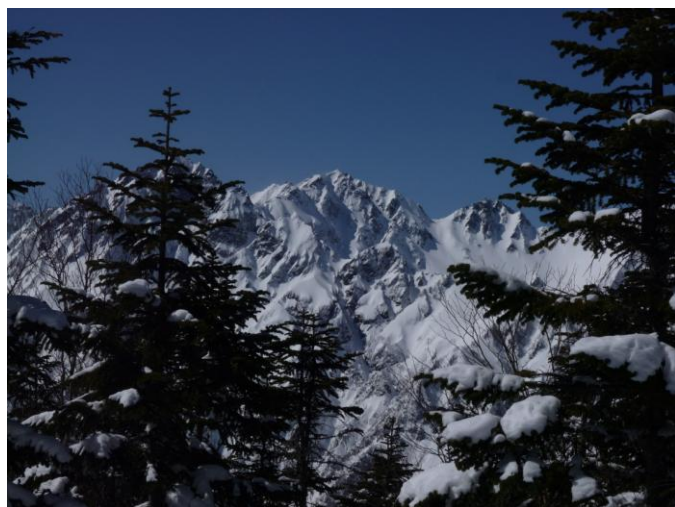
正面に乗鞍を眺めながら長堀尾根を下る



雪は深いがスノーシューが威力を発揮。快適な雪上漫步。



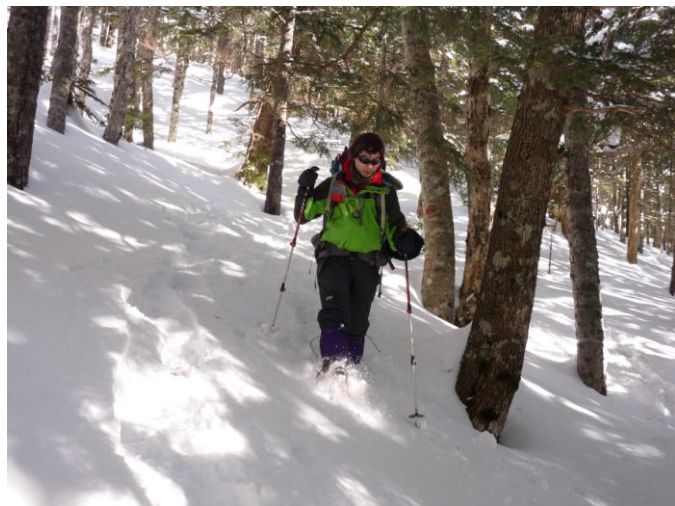
少し下ると尾根は樹林帯に入る



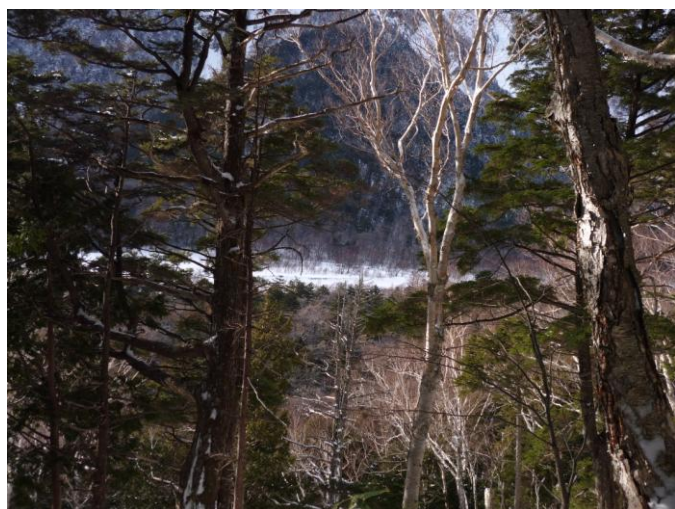
木々の間から見える穂高は大きい



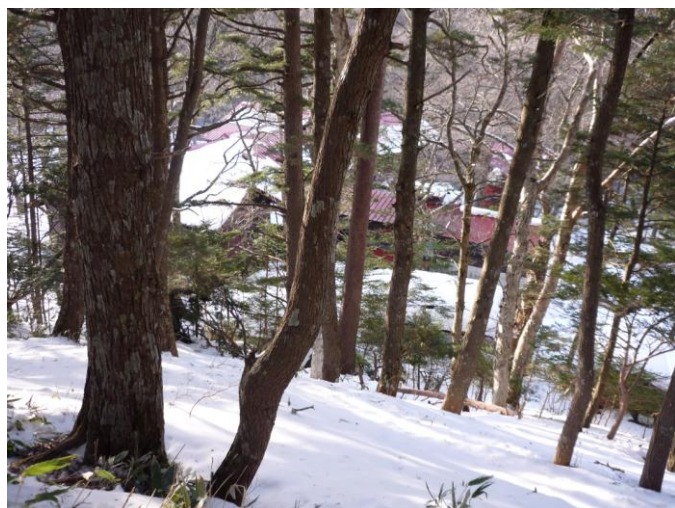
焼岳



急斜面はワカンで下る



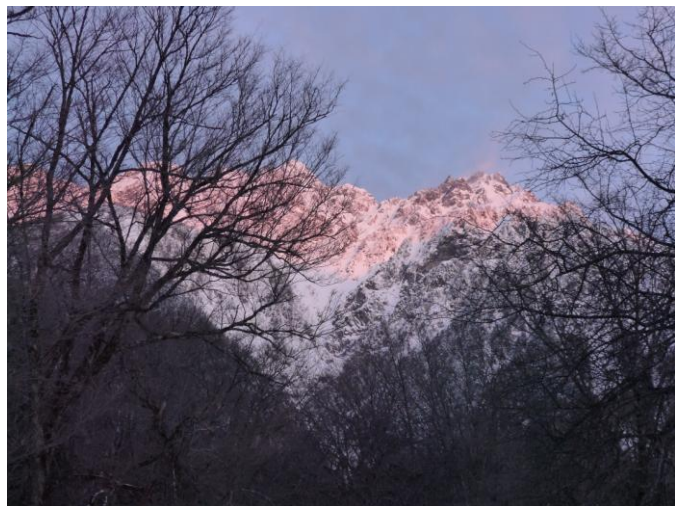
梓川が見えてきた



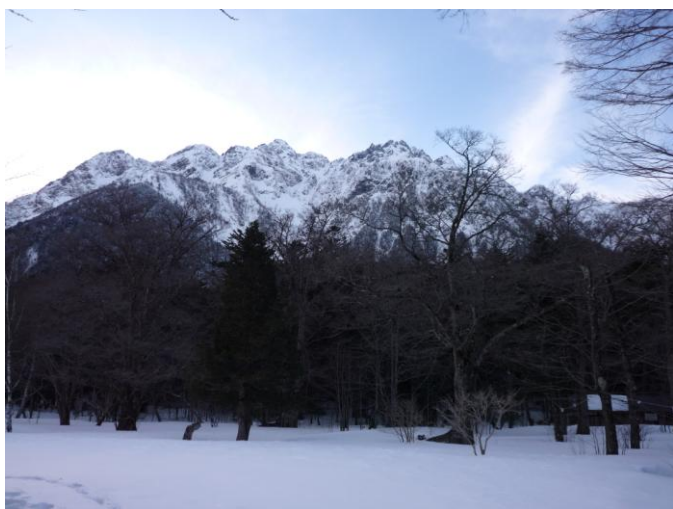
徳沢園までもう少し



雪の徳沢



朝焼けの前穂高



前穂高



朝の徳沢

4日目:3月3日(木)

八王子	06:29 発(JR)
松本	10:17 着 11:10 発(バス)
中ノ湯	12:25 着 12:45 発
上高地	15:20 着 15:30 発
横尾	19:30 着(冬期小屋泊)

最終日、中ノ湯まで戻るだけである。朝はゆっくりして、9時に出発。スノーシューで雪に覆われた梓川の河原を下って行く。予報通り、雲がどんどん広がってきた。日曜日なので、上高地周辺は人が多かった。バスの時間に間に合うように少しペースを上げ、釜トンネルを抜け、3時前、中ノ湯バス停に無事到着。松本行のバスに乗り、松本から各駅停車に乗って東京に戻った。



梓川の河原を下る。前穂高、明神が大きい。



霞沢岳



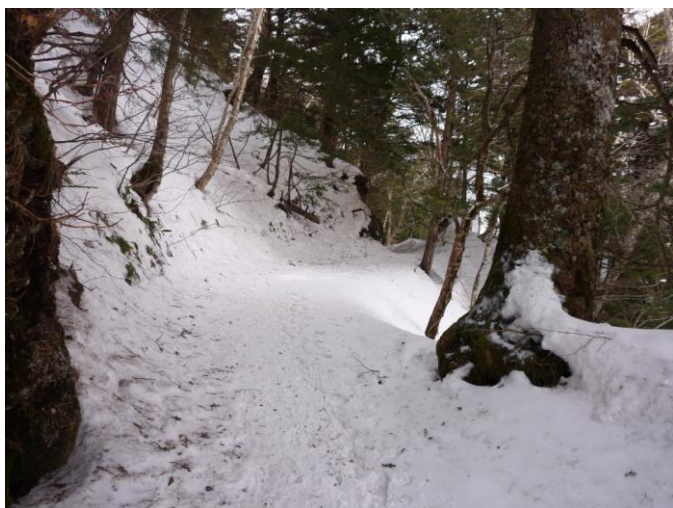
蝶ヶ岳方面を振り返る



明神の手前で右岸から左岸にわたる



河童橋から吊尾根。奥穂高は雲に隠れている。



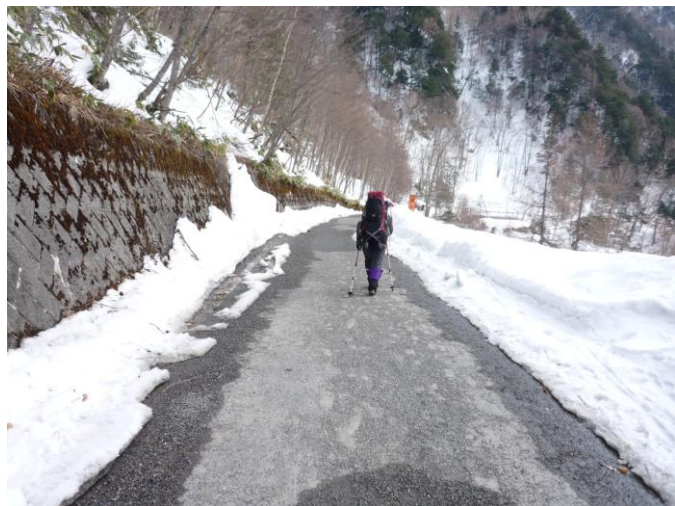
明神からは夏道を進む



夢中になって木をつつくキツツキ（アカゲラ）。近づいても全然気にしない。



大正池



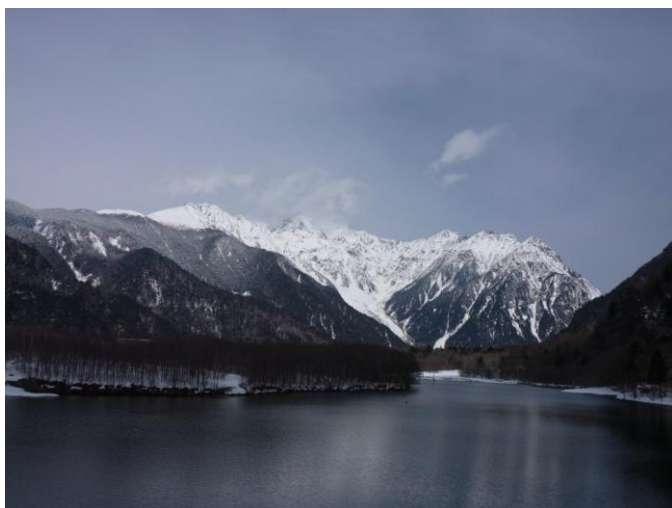
釜トンネルに近くなると、林道の雪は溶けていた



焼岳。大正池ホテルから。



中ノ湯に到着。充実した山行だった。



大正池越しに眺める穂高